

平成30年度 自己評価書	
学校名	和歌山市立大新小学校
校長氏名	村 上 和 彌
作成日	平成31年2月12日

1 教育目標
豊かな情操とまろやかな英知を育み、たくましく生きる子どもを育てる

2 本年度の取組についての評価				
	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力	健やかな体
重点目標【P】	教育目標の実現に向け、学校運営協議会、保護者や地域、関係機関との協力・連携を深め、特色ある教育活動を推進する。	感謝する気持ちやねばり強くがんばる気持ちを培い、生命を尊重しや他人を思いやるやさしい心を育てる。	「楽しく、わかる授業」を目指し、子どもの学びや理解を大切にした授業づくりを推進する。	健康・安全についての知識と習慣を身に付け、気力・体力の充実した子どもを育てる。

取組の状況【D】	・学校だよりを大新連絡所に掲示したり、来所者に配布したりして、地域の方に読んでいただいた。 ・社会福祉協議会のふれあい食事に3・4年生が歌の発表を行い、その後お話をする時間をとり、地域のお年寄りとの交流を深めた。 ・公民館教室活動の講師を学校に招聘し、1、3、4年生は絵手紙、2年生はお茶会、5年生はフラワーアレンジメント、6年生は水墨画と、各学年1教室ずつの体験をさせていただいた。 ・感謝の集いを行い、日頃お世話になっている方々に感謝の気持ちを伝えた。 ・太鼓指導や喫煙防止教育、食育授業、オペラ歌唱鑑賞など、ゲストティーチャーを積極的に迎えることができた。 ・音楽発表会を開催し、保護者や地域の方々に学習の成果を見ていただいた。	・教育研究所の客員指導主事を招いて4年生の道徳の研究授業を行い、全教員で道徳の授業づくりに取り組んだ。 ・人権をテーマにした授業を参観日に実施し、全校で人権意識の高揚を図った。 ・全校縦割り(なかよし)活動を実施し、互いを大切にする心の涵養に努めた。 - また、マラソンや縄跳びを通して、強い体をつくるとともに、がんばる気持ちとみんなで協力することの大切さを育てる努力をした。 ・1円玉募金や公園清掃などの青少年赤十字活動に取り組み、自主性とやさしい心根の育成を図った。	・5つの算数科の研究授業を実施した。2、3、5年生は校内研究、1、6年生は教科等別研修会として公開授業を行い、子どもの思考を大切にする授業の在り方について教員の指導力を深めた。 ・個人差の大きい子どもたちに対して、学習補充の時間を設けたり、和歌山大学から学生ボランティアを受け入れたりするなど、学習支援の充実に努めた。 ・全校集会や図書委員会の活動、昼の放送などにおいて読み聞かせを行い、読書活動の充実に努めた。また大新クラブの方に図書室のお世話を協力していただき、本に触れ合える時間をより多く設けた。	・保護者の理解を得ながら、子どもたちへの週1回のフッ化物洗口を実施することができた。 ・歯磨きチェック習慣を設け、食後に歯をみがく習慣を意識付けさせることができた。 ・和歌山市並びに和歌山県歯科保健優良校として表彰していただいた。 ・交通安全教室を行い、交通ルールを守り、安全に登下校できるよう指導することができた。 ・朝マラソンやなわとびを通して、健康維持及び体力の向上を図ることができた。 ・「元気大作戦」という期間を設け、基本的生活習慣の定着を図った。
（評価結果【C】）	・ふれあい食事会など地域の方とのふれあい活動は、地域の方に好評であり、楽しみにしていただいている。また児童にとっても、地域の方と直接触れ合うことのできるいい機会となっている。 ・保護者アンケートで「学校の教育活動や子どもの様子をわかりやすく伝えている」が87%（昨年度91%）、「学校と家庭がそれぞれの役割を果たし、連携協力している」が85%（昨年度83%）となった。今後さらに工夫して取り組みたい。	・「楽しそうに学校へ通っている」というアンケート結果は、保護者96%（昨年度92%）であるが、否定的回答家庭0%にむけ力を入れていきたい。 ・「全校縦割りなかよし活動」は、本校の中心的な取り組みであり成果も上がっているため、来年度も引き続き行っていく。 ・「友達となかよくしている」という児童アンケートの結果は98%であるが、「いじめをなくす学校・学級づくりの取り組み」の保護者アンケートの結果は82%となっている。学校での取り組みを積極的に発信し、家庭との連携を緊密にしていきたい。	・「子どもが学習内容がわかり、基礎的な学力が身についている」という保護者アンケートが、83%（昨年度88%）であった。また、「毎日の勉強がわかる」という子どものアンケート結果は、92%（昨年度96%）であった。個人差に応じた指導をよりきめ細かく工夫することが必要である。 ・基礎的な学力をつけるためには、家庭の協力が不可欠である。家庭学習や生活習慣の面で、学校と家庭の協力・連携をより一層深めていく必要がある。	・インフルエンザ予防のため、手洗いとうがいを習慣化する取り組みを進めてきたので、今年度は学級閉鎖をすることもなく、罹患者も数名にとどまり、校内での流行に歯止めがかかった。引き続き、取り組んでいきたい。 ・給食後の歯みがきは定着しつつある。家庭との連携を図りながら、家庭での歯みがき等、基本的生活習慣の定着を進める取り組みが必要である。
改善方法【A】	・今年度の保護者アンケートの回収率は92%（昨年度95%）と少し減少する結果となった。今後、更に大新小学校の取り組みを理解し協力していただけるよう、積極的な情報発信をしていきたい。 ・地域の方々との交流を大切にするとともに、地域の学校として愛されるよう、交流の仕方や学習発表の内容を工夫していきたい。	・「全校縦割り(なかよし)活動」は、大新小学校の教育活動の核となる取り組みで、子どもたちにもよき伝統として定着している。来年度も、より充実した取り組みとしていきたい。 ・道徳の取組について、来年度の新学習指導要領全面实施に向け、しっかりと計画を立て実施していきたい。 ・様々な機会を捉えて学校の取り組みを保護者に伝え、理解と協力を求めている。	・生活面や学習面で課題のある児童に対して、学校での支援を丁寧に行うとともに、家庭と連携して粘り強く継続した取り組みを進めていきたい。 ・算数の研究授業については、子どもが興味を持って学習に取り組める「教材の工夫」や、話し合いの時間を充実させるための「指導者の工夫」に焦点をあて指導方法の研究を深めていきたい。	・基本的生活習慣の定着を図るために、生活習慣を見直す機会や保健指導を行うとともに、学校保健安全委員会などを通して学校と家庭が連携し、継続的な取り組みができるようにしていきたい。

3 その他の課題
・2020年度の新学習指導要領全面实施に向け、新たに外国語(活動)の時間を設けなければならない、授業時間数の確保が大きな課題になってくる。学校行事等を含め、今までの取組について見直しをする必要が出てくるかもしれない。しかし、例えば「全校縦割り(なかよし)活動」は、1年生から6年生までの子どもたちが1年間さまざまな活動を行い、それを通してどの子にも集団生活の基本や社会性、思いやりの心などが確実に育っている。地域と関連した行事も、その一つ一つが大新小学校の子どもたちにとって、地域の方と直接交流したり、感謝の気持ちを伝えたりすることのできる貴重な時間になっている。保護者、地域とともにとてもすばらしい学校で、子どもたちはやさしくて思いやりがあり、落ち着いた雰囲気の中で伸び伸びと育っている。これらの良さを大切にしながら、これからも小規模校の特性を生かし、一人ひとりを大切にするきめ細やかな教育をすすめ、地域、保護者とともに歩んでいける大新小学校にしていきたい。